



## 世田谷の福祉の足となる 福祉車両を毎年2台寄贈

### 北沢遊技場組合 (東京都遊技業協同組合)

#### 「北沢組合福祉車両寄贈」事業



北沢遊技場組合  
組合長  
南栄二さん

#### 暴排活動への協力の恩返しに福祉車両を贈る

暴力団対策法の改正や各都道府県の暴力団排除条例の施行によって、社会的に暴力団排除の動きが広がっている。そうした動きを受け、全日本遊技事業協同組合連合会でも全組合員が大団結し、「明るく、開かれた、健全な業界」を目指して、「暴力追放三ない運動+1」(暴力団を利用しない・暴力団を恐れない・暴力団に金を出さない・暴力団と交際しない)などの暴力団排除活動を推進している。

東京都遊技業協同組合の92ある支部組合のひとつである北沢遊技場組合では、1989年ごろから暴力団排除活動に本格的に取り組み、約3年をかけて関係を断ち切ることができたという。「その間、暴力団や右翼団体などからの激しい抵抗があり、地域の方々には大変なご迷惑をおか

けしましたが、暴力団排除活動を完遂できたのも、地域の皆様のご理解とご協力があったことでした」と、同組合の南栄二組合長は話す。

そうした経緯から、同組合では地域社会に何らかの形で貢献することで恩返しをしたいという思いを込め、1993年から毎年、世田谷区を通して福祉車両を2台ずつ寄贈する活動を続けている。2015年3月にも車いすでも乗車できるスロープをつけた福祉車両を2台寄贈したが、これによって同組合から世田谷区へ寄贈された福祉車両は累計で48台となった。寄贈された福祉車両は世田谷区を通じ、さらに、区内を拠点に活動している社会福祉関係のNPO法人や団体などに寄贈されることになっている。これまでに寄贈を受けた施設では、通所者や利用者の送迎や移動手段などにその車両を活用して、大いに役立っているという。

#### 地域の福祉向上に欠かせない福祉車両

昨年3月19日には、例年通り、世田谷区役所の中庭で福祉車両の寄贈式が行われ、今回は改良された日産キャラバンとスズキタントの2台が、世田谷区を通して社会福祉法人「ふきのとうの会」と、同じく「敬寿会」の2法人に贈られた。

寄贈式で保坂展人区長に記念のレプリカキーを手渡した

南組合長は、「1993年から毎年、こうして寄贈できることに感謝したい」と挨拶。一方、レプリカキーを手渡された保坂区長からは、「北沢遊技場組合の皆様の地域福祉に対するご支援とお気持ちを受け止めさせていただくとともに、継続されていることに心から敬意を表したい。今回は2施設において、高齢者や認知症の方々の足となって大いに活用していただけていると思っています」と、感謝の言葉が述べられた。

世田谷区は現在、約88万人と都内第一位の人口で、うち65歳以上の高齢者が約17万人、障がいのある方が約4万人いる。今後も人口に占める高齢者の割合や認知症患者の数は増えていくと予測されており、身近な地域福祉向上の重要性がますます高まっていくことは間違いない。

地域の人々に支えられることでホールを維持できる遊技業界にとって、身近な地域の福祉に貢献することはCSR(企業の社会的責任)という観点から見ても必要不可欠なことであり、その意味でも同組合が継続して取り組んでいる福祉車両の寄贈は、まさに時代や時宜に適ったことである。暴力団排除への理解と協力に対する感謝と恩返しとして始まった福祉車両の寄贈だが、いまや同組合の活動は地域の福祉にとって欠かせない活動となっている。同組合では、今年(2016年)3月にも2台の福祉車両を贈り、累計で50台となった。



世田谷区へ寄贈した福祉車両



福祉車両贈呈式